



「ふるさと研究活動」は、子どもからおとなまで、幅広い世代の市民のみなさんの参加により、ふるさと所沢の自然・歴史・芸術・文化・産業など、様々な分野の資料や情報を集め、調査・研究を深めてゆく活動です。「所沢のことをなんでも知りたい！」方のご参加をお待ちしております。

## 市民学芸員養成講座を開催します!!

ふるさと研究活動は、市民とともに進める博物館活動としてスタートし、これまで「入門 所沢市史」や「クローズアップ所沢」などの講座や星空フェスティバル事業などを開催しました。今回、博物館活動に理解を深めていただくため、市民学芸員養成講座を開催します。博物館活動に興味のある方、今後活動に参加してみたいという方は是非お申し込みください。

※ 時間はいずれも午後1時30分～3時30分です

### 12月18日(土) **博物館の魅力**

博物館活動支援センター 山田英徳さん

### 1月8日(土) **地域博物館に学ぶ(1)**

入間市博物館 工藤 宏さん

### 1月15日(土) **地域博物館に学ぶ(2)**

飯能市郷土館 柳戸信吾さん

### 1月22日(土) **モノから民俗資料へ**

民具研究家 宮本八恵子さん

### 1月29日(土) **古文書の整理と活用**

生涯学習推進センター職員



平成20年度博物館ワークショップより

会 場 所沢市生涯学習推進センター

定 員 30人(先着順)

申込み 12月1日(水)から電話でお申し込みください。定員になり次第締め切らせていただきます。



11月にご覧いただける展示など

場 所	内 容
常設展示室	所沢の歴史・民俗・自然など
メモリアルルーム	並木東小学校の「記憶」
南棟3階階段脇掲示板	秋季企画展プレ展示「祝祭の年に」 写真で見る所沢の移り変わり 11月21日(日)まで
3階中央棟廊下壁 <b>今月の航空写真</b>	(11月30日までお休みです)

秋季企画展「ところざわ60年」では、市制施行後「所沢市」60年の歴史を追う三択クイズ60問を配布しました。その中から、基本となる12題を2つずつ6回に分けてご紹介します。

**Q** 所沢市の市制施行は昭和25年( )です。

- ①4月1日 ②5月30日 ③11月3日

**正解 ③**

まずはすべての出発点となる1問です。

所沢の市制施行に向けた動きは昭和24年頃に始まります。現在の行田市（24年5月3日に市制施行）や秩父市（25年4月5日に同）の動向が報道され、所沢も後れを取るまいとして動き出します。とはいえ、町の意見が最初から賛成でまともまっていたのではなく、市街地と農村部の格差を問題視する意見が町議会では強く、また住民には市への移行による税負担の増加への不安もありました。必ずしも歓迎だけではない空気の中、県内8番目として所沢市は誕生します。

**Q** 昭和20年代の市内で、次の3つのうち作付面積が一番多かったのは？

- ①小麦 ②ほうれんそう ③お茶

**正解 ①**

所沢の農産物といえばほうれんそう？それともお茶…？

答えは①の麦です。戦争の影響も未だ色濃い20年代は深刻な食糧不足の中にありました。農業の振興、特に主食となる作物が重視され、かつての特産である養蚕桑から麦への転作もしばしば見られました。その流れが一段落した昭和40年代以降、狭山茶ブランドのお茶の栽培が、そしてさらに遅れた50年頃から、ほうれんそうなど商品作物の栽培が盛んになっていきます。

## 市制60周年…昭和25年人口のナゾ

ふるさと研究市民トピック vol.17



今年市制施行60年、所沢が市となった昭和25年が注目です。そして最近よく聞かれるのが、『昭和25年の所沢の人口は4万何千人という場合と5万何千人という場合があるけどどちらが正しいの？』というご質問です。

当時所沢町が県に提出した「所沢市設置申請書」では、25年7月末日現在の現住人口を42,561人としています。これは現在という住民登録上の数値と考えられ、一方、5年ごとに実施される（今年もありました）国勢調査では、25年10月1日時点の人口を52,188人としています。市が作成している『所沢市統計書』では、この国勢調査の数値が25年の人口です。

この数値はどちらも公式に算定、発表され

たものであり、1万近い開きがあるうがいがずれが誤りとは言えません。この開きの原因のひとつとして米軍基地の存在が考えられます。国勢調査は住民登録のあるなしを問わず、居住の実態に基づき数値を出します。当時の米軍基地は朝鮮戦争の影響で拡大傾向にありました。日本人の労務者は最大時5千人近くに及んだといい、現在で言うところの「住民票は残したまま」所沢に仮住まいしていた人も相当数居たのではないかと想像されます。また外国籍の米軍兵士も国勢調査の数値には含まれてはいたはずですが、当時の駐留米軍の規模が不詳のため、具体的な数値で裏づけることはできていません。